

第31回電波功績賞 「総務大臣表彰」「電波産業会会長表彰」受賞

2020年6月24日に第31回電波功績賞の発表が行われ、代表取締役社長の吉澤 和弘が「第5世代移動通信システム（5G）の開発・実用化」についてKDDI株式会社、ソフトバンク株式会社と連名で総務大臣表彰を受賞しました。また、ネットワークイノベーション研究所の中村 武宏が「建物や車の外観を損なわない通信用ガラスアンテナの開発」についてAGC株式会社と連名で、北海道支社の河野 誠が「700MHzの終了促進措置に伴う周波数共有の推進」について一般社団法人700MHz利用推進協会、ソフトバンク株式会社、KDDI株式会社と連名で、それぞれ電波産業会会長表彰を受賞しました。

電波功績賞は、一般社団法人電波産業会（ARIB：Association of Radio Industries and Businesses）により、電波の有効利用に関する調査、研究、開発において画期的かつ具体的な成果をあげた者、あるいは電波を有効利用した新しい電波利用システムの実用化に著しく貢献した者に対して授与されるものです。今回の表彰では総務大臣表彰が3件、電波産業会会長表彰が5件受賞となりました。

総務大臣表彰の「第5世代移動通信システム（5G）の開発・実用化」では、5Gを開発・実用化するた

めに、早期から5G関連技術の実用性検証・評価に取り組み、社会課題の解決や地方創生などに向けた地方自治体やさまざまな業界のパートナーとの実証実験や体験イベントの展開、システムの国際標準化活動ならびに技術開発の積極的な推進、高速・大容量、低遅延、多数端末接続を可能とする5Gサービスの提供の実現など、電波の有効利用に大きく貢献したことが評価されました。

電波産業会会長表彰の「建物や車の外観を損なわない通信用ガラスアンテナの開発」では、建物の外観を損なわない通信用アンテナとして窓ガラスの室内側に張付けできる透明なガラスアンテナを開発し、窓ガラスによる電波の減衰・反射の影響を抑制する設置技術により、安定した高速通信を可能とし、「窓の基地局化」によるサービスエリアの拡充を図るとともに、28GHz帯の5G用ガラスアンテナを開発し、走行自動車での実証実験にも成功するなど、電波の有効利用に大きく貢献したことが評価されました。

同じく電波産業会会長表彰の「700MHzの終了促進措置に伴う周波数共有の推進」では、3.9世代移動通信システム用周波数の確保のために実施した700MHzの終了促進措置に伴う周波数移行において、既存無線システムとの周波数の地理的な共用と時間的な共用を実現するために綿密な運用調整を行い、既存無線局の移行と並行して基地局の整備を可能とし、移行期間に携帯電話事業者合計で約38,000局の基地局を順次整備しサービスを開始するなど、電波の有効利用に大きく貢献したことが評価されました。

本誌に掲載されている社名、製品およびソフトウェア、サービスなどの名称は、各社の商標または登録商標。

